

第2章 浅口市の現状と課題

1 地域の概況

1-1 自然的状況

(1) 位置・地勢

本市は、瀬戸内海に面した岡山県の西南部に位置し、総面積は66.46km²と県内で最もコンパクトな市です。また、10km圏域には中核市の倉敷市が、30～40km圏域には政令指定都市である岡山市や中核市の福山市が位置しています。市中央部を山陽自動車道や国道2号、JＲ山陽本線、山陽新幹線等の基幹的な交通軸が通っています。

地勢は北の遙照山系から南の瀬戸内海まで多様であり、気候は瀬戸内特有の温暖小雨で、過ごしやすく、自然条件に恵まれた地域です。

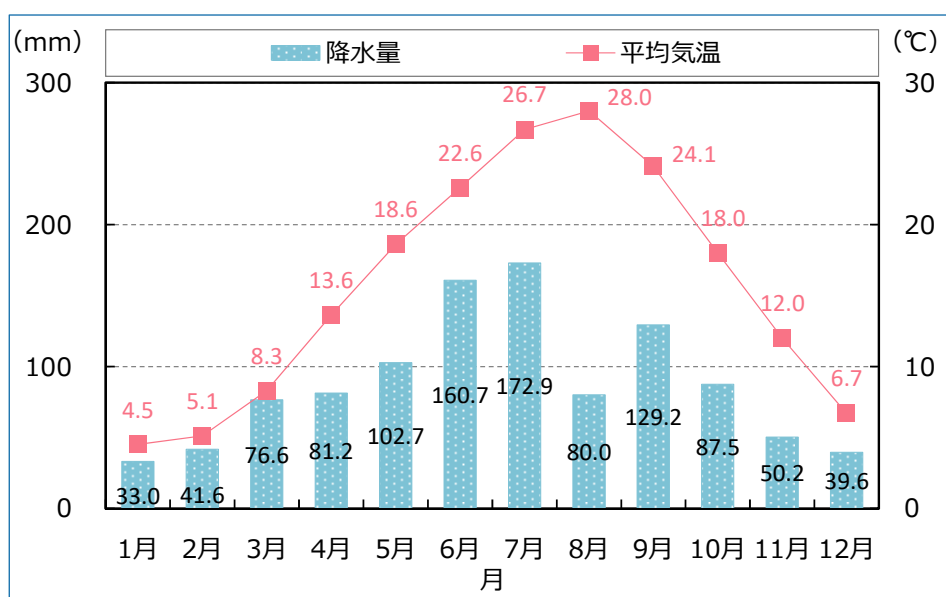


浅口市の位置

(2) 気象

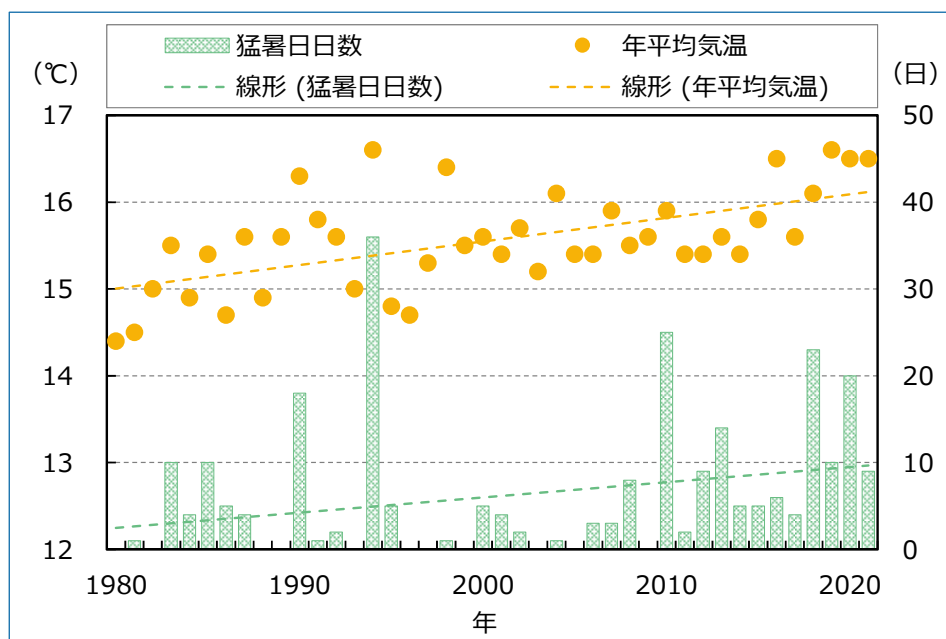
市内には地域気象観測所が設置されていないため、隣市である笠岡市の笠岡地域気象観測所における観測値を整理しました。

同観測所の年平均気温及び年間降水量の平年値（1991年から2020年の30年間の平均値）は、それぞれ15.7℃、1,055mmとなっています。月平均気温の平年値は8月が28.0℃と最も高く、月間降水量の平年値は7月が172.9mmと最も多くなっています。また、年平均気温及び猛暑日日数は、ここ40年間でわずかな増加傾向で推移しています。



資料：気象庁統計資料

月平均気温及び月間降水量の平年値



資料：気象庁統計資料

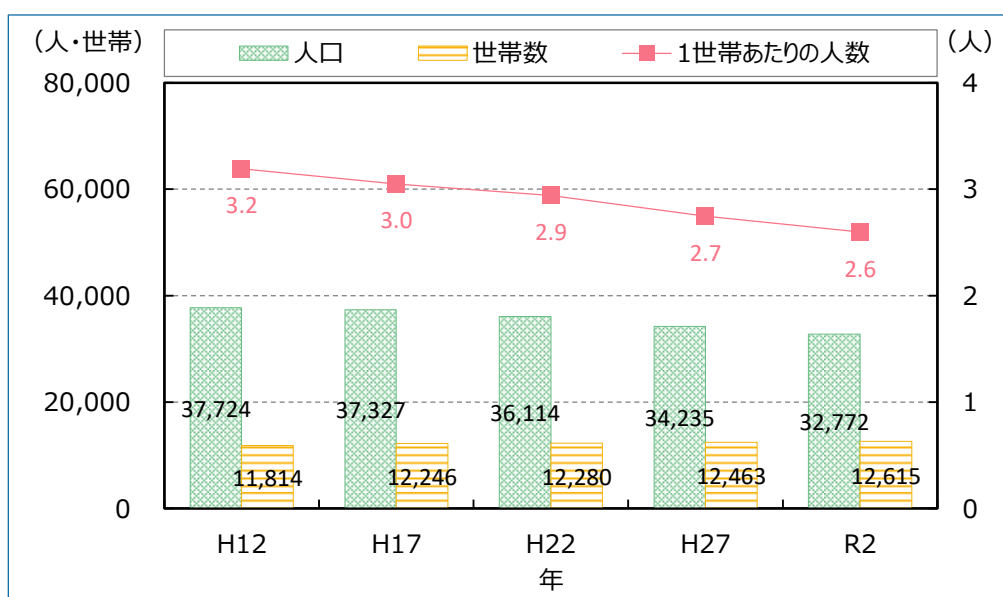
年平均気温及び猛暑日日数

1-2 社会的状況

(1) 人口・世帯数

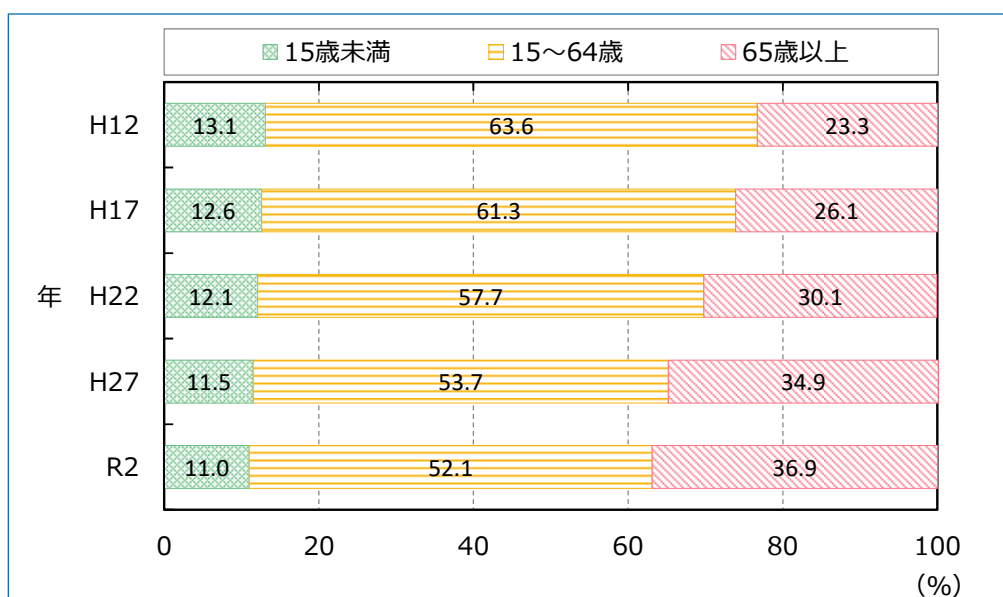
本市の人口及び世帯数は、令和2年でそれぞれ32,772人、12,615世帯となり、人口は減少傾向で推移している一方で、世帯数は増加傾向で推移しています。1世帯あたりの人数は、令和2年で2.6人となり、減少傾向で推移していることから、核家族化や単身世帯化が進行しています。

また、年齢階級別構成比は、15歳未満及び15～64歳が減少傾向、65歳以上が増加傾向で推移していることから、少子高齢化もあわせて進行しています。



資料：国勢調査

人口及び世帯数



資料：国勢調査

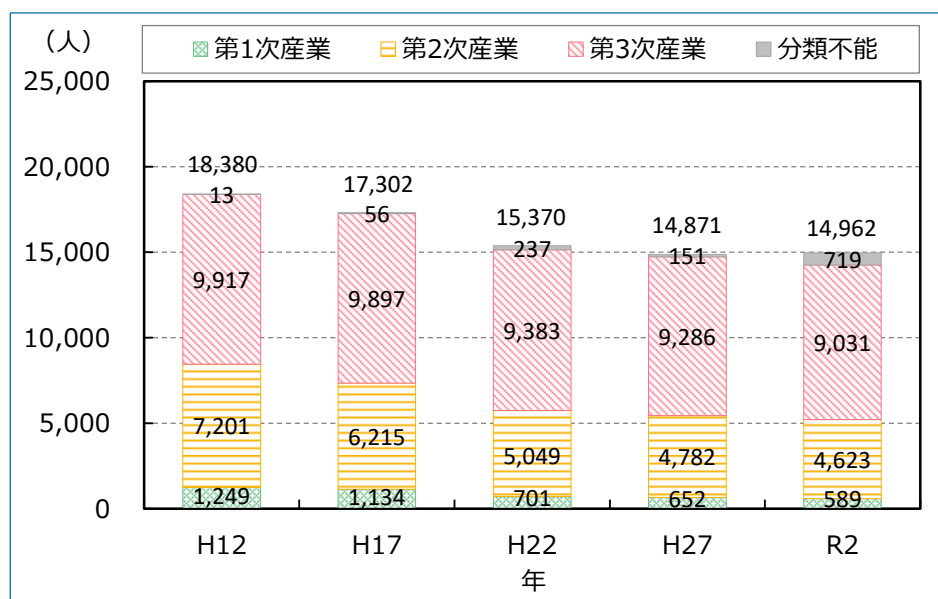
年齢階級別構成比

(2) 産業

①産業別就業者数

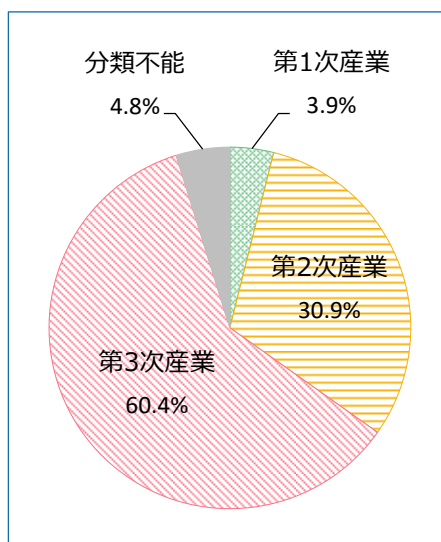
本市の総就業者数は、令和 2 年で 14,962 人となっており、平成 27 年度まで減少傾向で推移した後、増加傾向に転じています。

また、令和 2 年の産業別就業者数の構成比は、第 3 次産業が 60.4%と最も高く、次いで第 2 次産業が 30.9%、第 1 次産業が 3.9%などとなっています。



資料：国勢調査

産業別就業者数

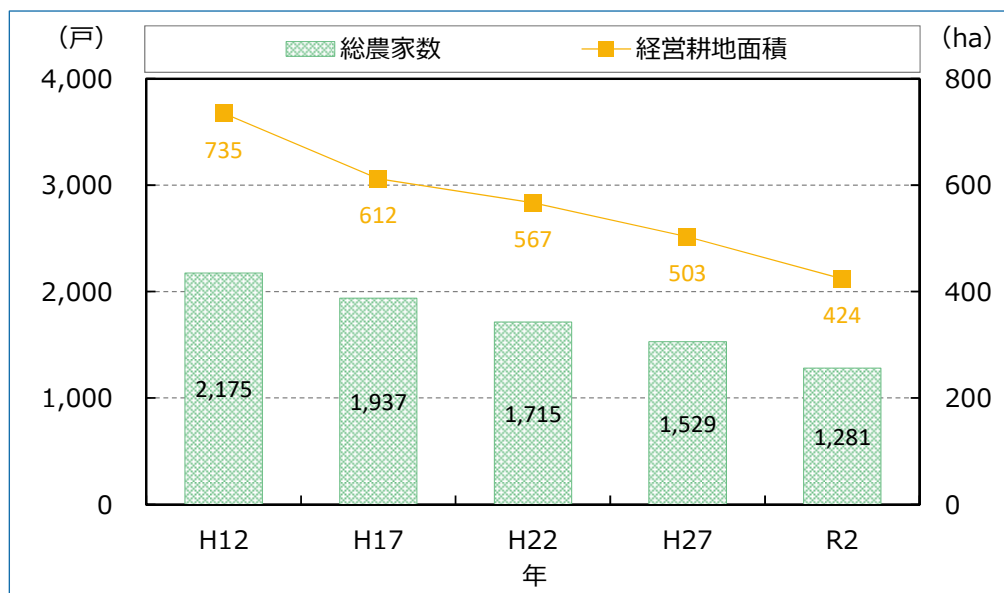


資料：国勢調査

産業別就業者数の構成比（令和 2 年）

②農業

本市の総農家数及び経営耕地面積は、令和 2 年でそれぞれ 1,281 戸、424ha となっており、両者ともに減少傾向で推移しています。



資料：農林業センサス

総農家数及び経営耕地面積

③林業

本市の森林面積は、令和 3 年 3 月 31 日現在で 2,939ha となっており、総面積（6,646ha）の 44.2%を占めています。そのうち、森林計画対象森林（国有林・民有林）の面積は 2,899ha で、そのうち人口林が占める割合は 3.3%となっています。また、地域森林計画対象民有林の成長量は 1,330m³で、そのうち人工林が占める割合は 30.5%となっています。

森林面積等（令和 3 年 3 月 31 日現在）

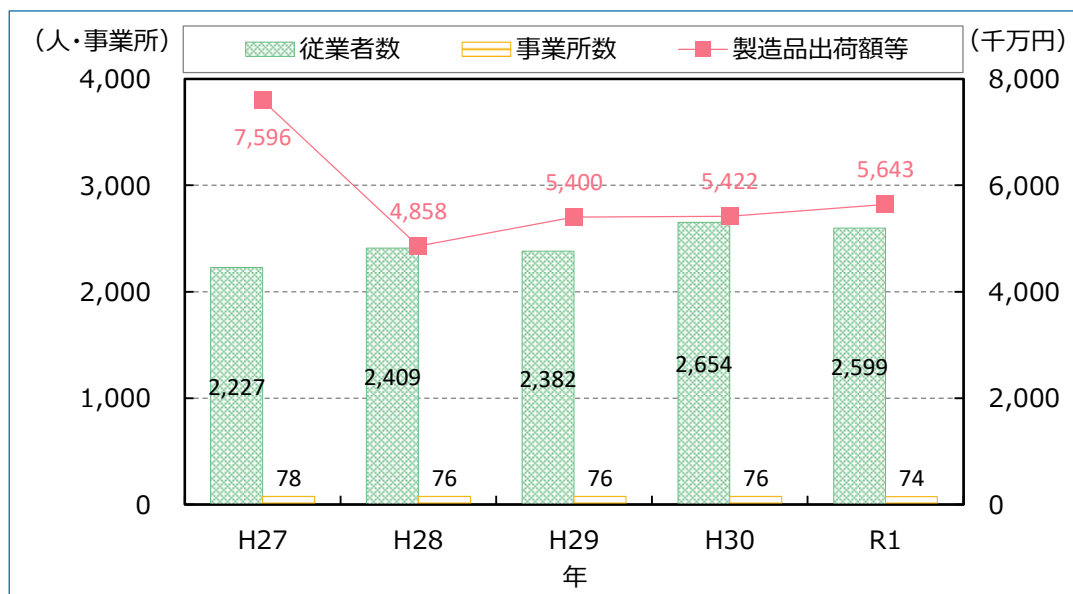
区分	森林計画対象森林（国有林・民有林）			
	面積（ha）	地域森林計画対象民有林		
		面積（ha）	材積（m ³ ）	成長量（m ³ ）
人口林	96	96	13,157	405
天然林	2,685	2,620	260,794	925
その他	117	117	—	—
合計	2,899	2,833	273,951	1,330

注）小数点以下を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

資料：岡山県の森林資源

④工業

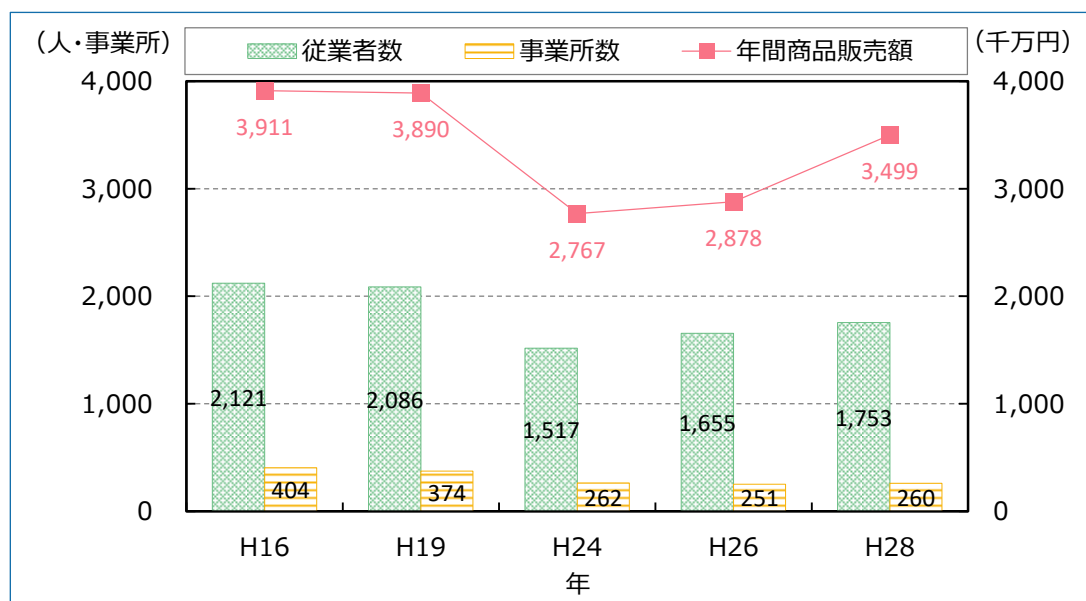
本市の工業の従業者数、事業所数及び製造品出荷額等は、令和元年でそれぞれ 2,599 人、74 事業所、5,643 千万円となっています。従業員数は多少の増減はあるものの増加傾向で推移している一方で、事業所数は減少傾向で推移しています。また、製造品出荷額等は平成 28 年に大きく減少した後、増加傾向に転じています。



資料：平成 28 年経済センサス-活動調査、工業統計調査
工業の従業者数、事業所数及び製造品出荷額等

⑤商業

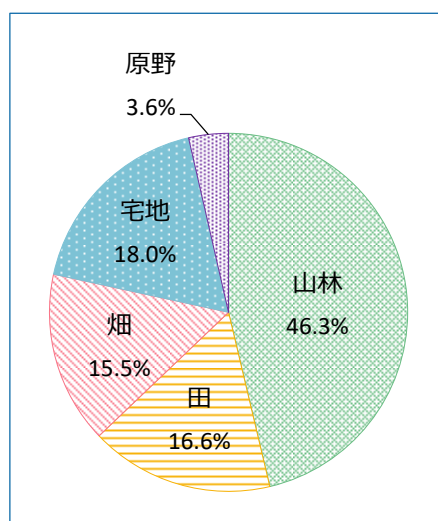
本市の商業の従業者数、事業所数及び年間商品販売額は、平成 28 年でそれぞれ 1,753 人、260 事業所、3,499 千万円となっています。従業者数は平成 24 年まで、事業所数は平成 26 年まで減少傾向で推移した後、増加傾向に転じています。また、年間商品販売額は平成 24 年に大きく減少した後、増加傾向に転じています。



資料：平成 24・28 年経済センサス-活動調査、商業統計調査
商業の従業者数、事業所数及び年間商品販売額

(3) 土地利用

本市の民有地面積の構成比は、山林が 46.3%と最も高く、次いで宅地が 18.0%、田が 16.6%、畑が 15.5%などとなっています。

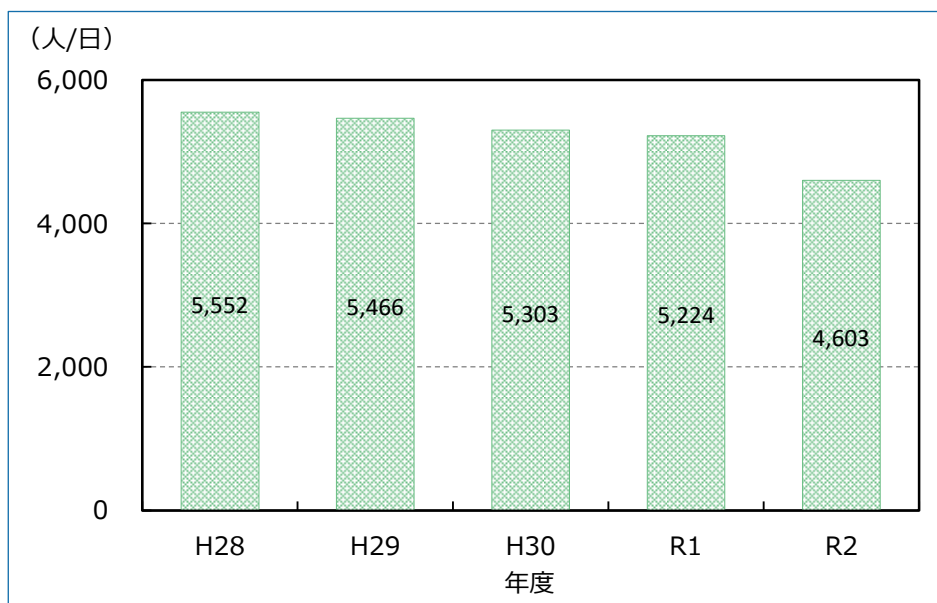


資料：岡山県統計年報
民有地面積の構成比（令和 3 年 1 月 1 日現在）

(4) 交通

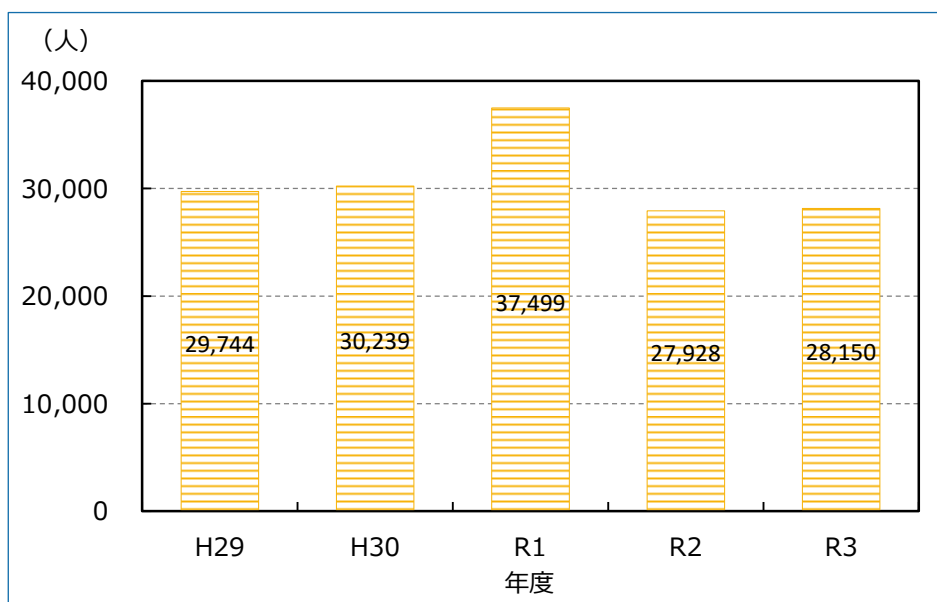
JR の市内駅 1 日平均乗車人数は、令和 2 年度で 4,603 人/日となっており、減少傾向で推移しています。

また、市営バス「浅口ふれあい号」の年間延べ利用者数は、令和 3 年度で 28,150 人となっており、令和元年度まで増加傾向で推移した後、概ね横ばいで推移しています。



資料：岡山県統計年報

JR の市内駅 1 日平均乗車人数



資料：浅口市資料

市営バス「浅口ふれあい号」の年間延べ利用者数

(5) 公共施設

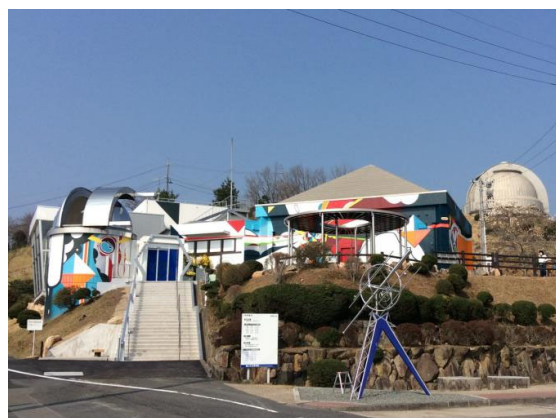
市内には、市役所・総合支所をはじめとして、公民館・コミュニティセンター、幼稚園・小学校・中学校、児童福祉施設など、57の公共施設が存在します。

公共施設の数	
区分	施設数
市役所・総合支所	3
公民館・コミュニティセンター	8
幼稚園	3
小学校	7
中学校	3
児童福祉施設	3
図書館	3
資料館・博物館	4
公園・体育施設	16
保健福祉施設	3
高齢者福祉施設	2
廃棄物処理施設	2
合計	57

資料：浅口市資料



金光公民館



岡山天文博物館



三ツ山スポーツ公園



寄島 B&G 海洋センター

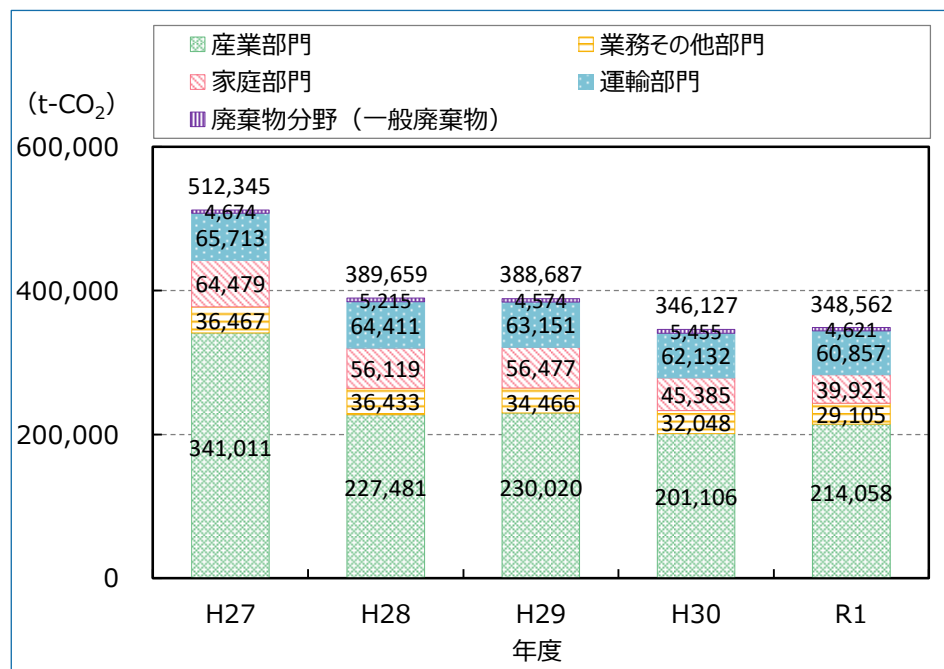
2 環境の現状

2-1 地球環境

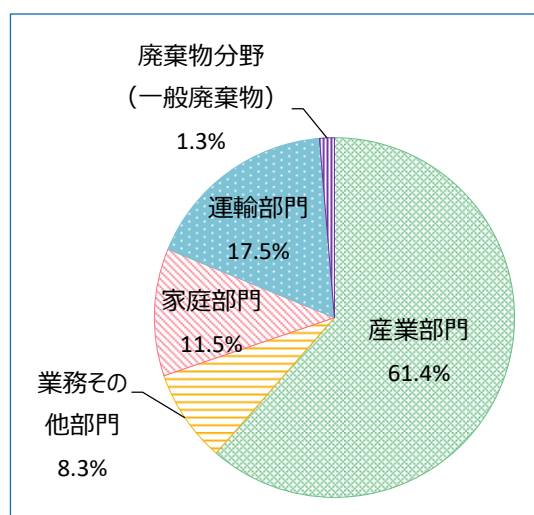
(1) 市域における温室効果ガス排出量

市域における温室効果ガス（CO₂）排出量は、令和元年度で 348,562t-CO₂ となっており、平成 30 年度まで減少傾向で推移した後、増加傾向に転じていますが、平成 27 年度と比較すると 32.0%減少しています。部門別に見ると、産業部門が 37.2%減、業務その他部門が 20.2%減、家庭部門が 38.1%減、運輸部門が 7.4%減、廃棄物分野（一般廃棄物）が 1.1%減となっています。

また、令和元年度の市域における温室効果ガス（CO₂）排出量の構成比は、産業部門が 61.4%で最も高く、次いで運輸部門の 17.5%、家庭部門の 11.5%、業務その他部門の 8.3%などとなっています。



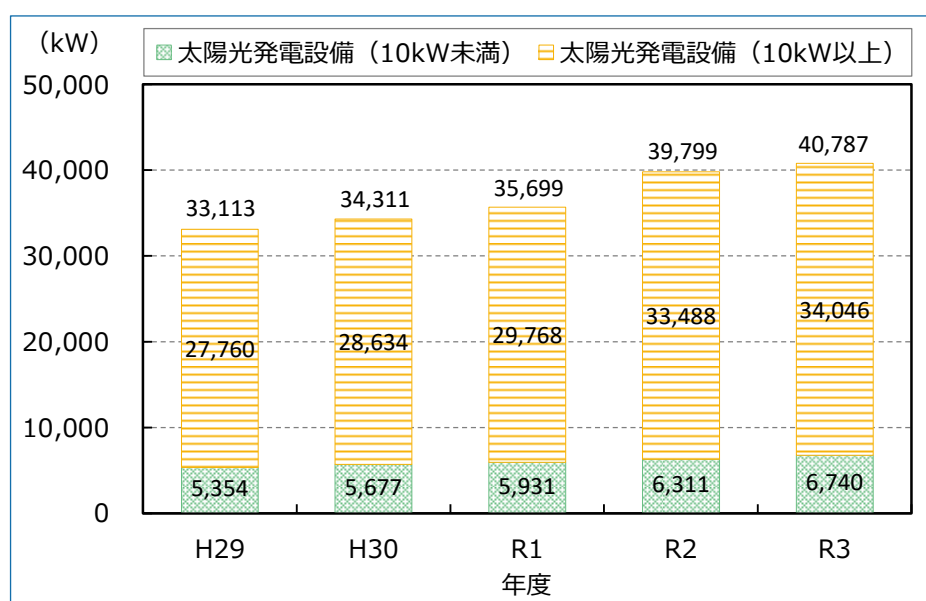
資料：自治体排出量カルテ（環境省）
市域における温室効果ガス（CO₂）排出量



資料：自治体排出量カルテ（環境省）
市域における温室効果ガス（CO₂）排出量の構成比（令和元年度）

（２）再生可能エネルギー

市内の固定価格買取制度による再生可能エネルギー設備の累計導入容量は、令和３年度で 40,787kW となっており、増加傾向で推移しています。内訳を見ると、太陽光発電設備（10kW 未満）が 6,740kW、太陽光発電設備（10kW 以上）が 34,046kW となっています。

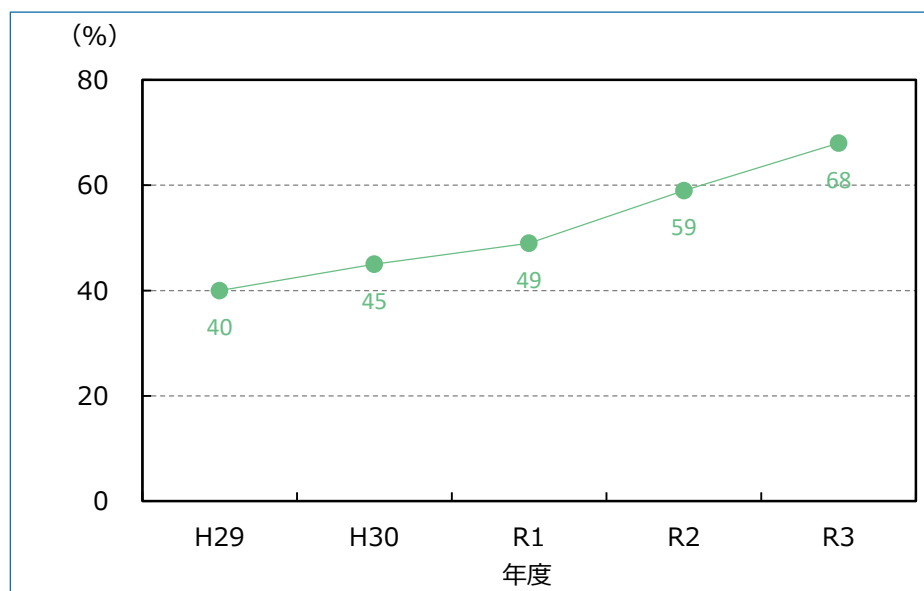


資料：固定価格買取制度 情報公表用ウェブサイト（資源エネルギー庁）
固定価格買取制度による再生可能エネルギー設備の累積導入容量

(3) 省エネルギー

本市では、夜間における犯罪危険箇所を把握し、効果的な防犯灯の整備に努めるとともに、省エネルギー性能に優れた LED 防犯灯への更新を推進しています。

防犯灯の LED 化率は、令和 3 年度で 68%となっており、増加傾向で推移しています。

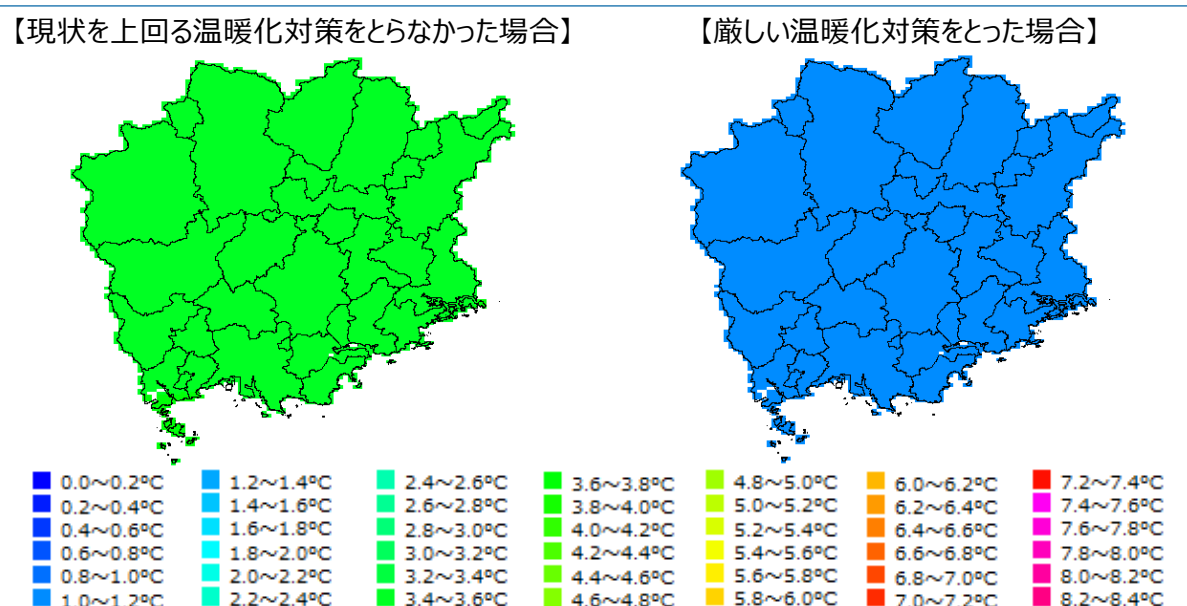


資料：浅口市資料

防犯灯の LED 化率

(4) 気候変動

気象庁の解析によれば、21 世紀末（2081～2100 年平均）の本市の年平均気温は、20 世紀末（1981～2000 年平均）と比べて、現状を上回る温暖化対策をとらなかった場合は 4℃前後、厳しい温暖化対策をとった場合でも 1℃前後上昇する可能性が高いとされています。



資料：気候変動適応情報プラットフォーム

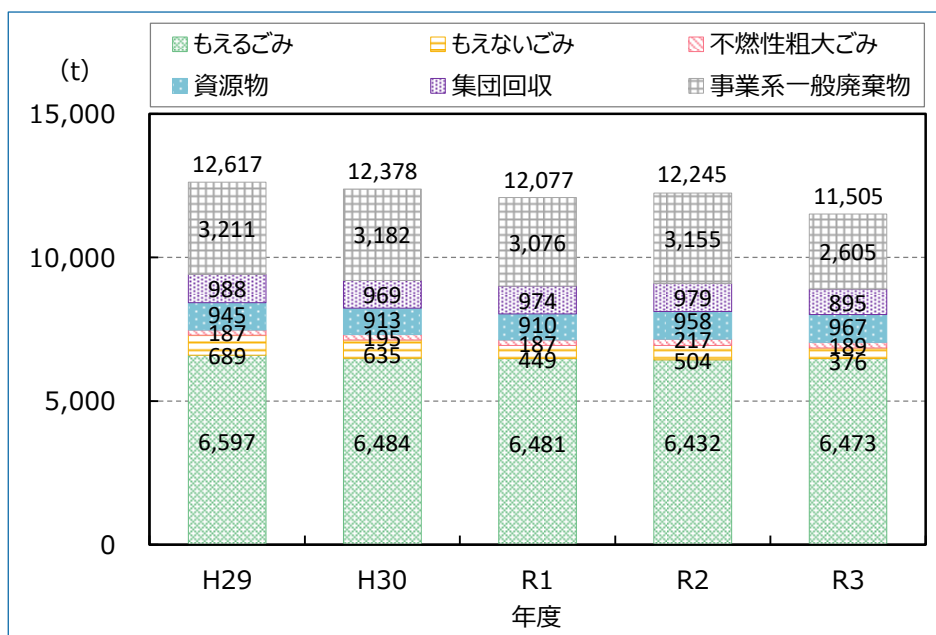
岡山県における年平均気温の将来変化

2-2 資源循環

(1) ごみ排出量

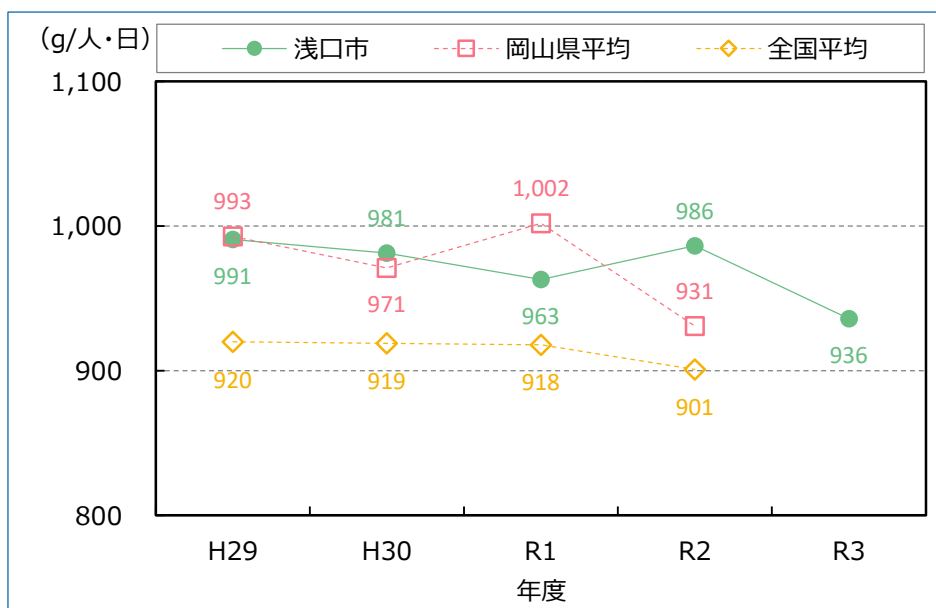
本市のごみ排出量は、令和3年度で11,505tとなっており、多少の増減はあるもののわずかな減少傾向で推移し、平成29年度と比較すると8.8%減少しています。種類別に見ると、もえるごみが1.9%減、もえないごみが45.4%減、集団回収が9.4%減、事業系一般廃棄物が18.9%減となっている一方で、不燃性粗大ごみが1.1%増、資源物が2.3%増となっています。

また、1人1日当たりのごみ排出量は、令和3年度で936g/人・日となっており、多少の増減はあるものの減少傾向で推移しています。全国平均よりも多い水準で推移していますが、平成30年度及び令和2年度以外は岡山県平均よりも少なくなっています。



資料：浅口市資料

ごみ排出量

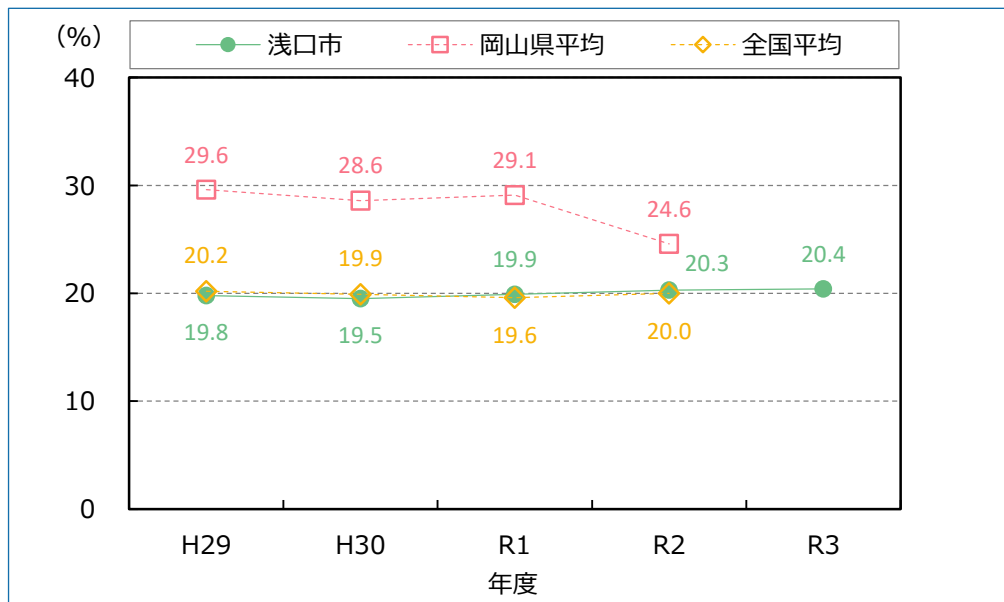


資料：浅口市資料

1人1日当たりのごみ排出量

(2) リサイクル率

本市のリサイクル率は、令和 3 年度で 20.4%となっており、平成 30 年度まで減少傾向で推移した後、増加傾向に転じています。岡山県平均より低い水準で推移していますが、全国平均と同水準となっています。



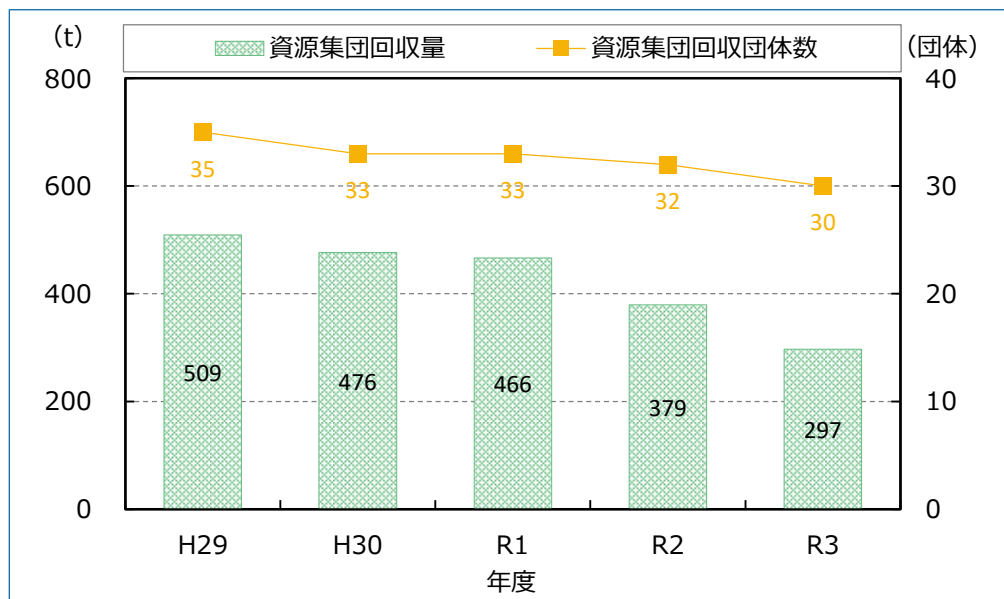
資料：浅口市資料

リサイクル率

(3) 資源集団回収

本市では、廃棄物の減量化及び再資源化を促進、団体の活動を推進するため、自主的に資源回収活動を実施する PTA、自治会、子ども会、老人会等の市民団体に対して報奨金を交付しています。

資源集団回収量及び資源集団回収団体数は、令和 3 年度でそれぞれ 297t、30 団体となっており、両者ともに減少傾向で推移しています。



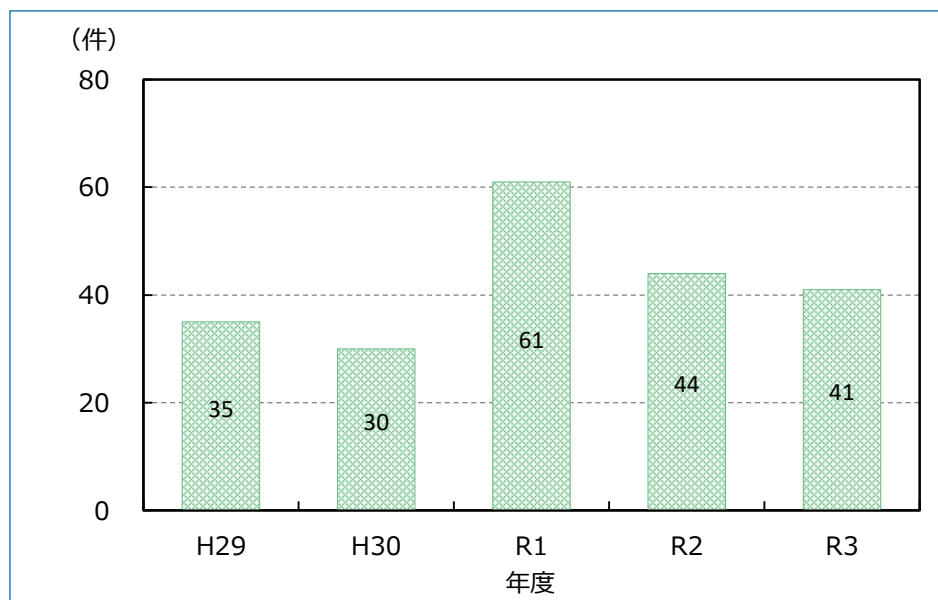
資料：浅口市資料

資源集団回収量及び資源集団回収団体数

(4) 生ごみ減量化

本市では、一般家庭から排出される生ごみの減量化を推進するため、コンポスト、ボカシ容器及び電気式生ごみ処理機の購入に対して補助金を交付しています。

交付件数は、令和 3 年度で 41 件となっており、増減しながら推移しています。



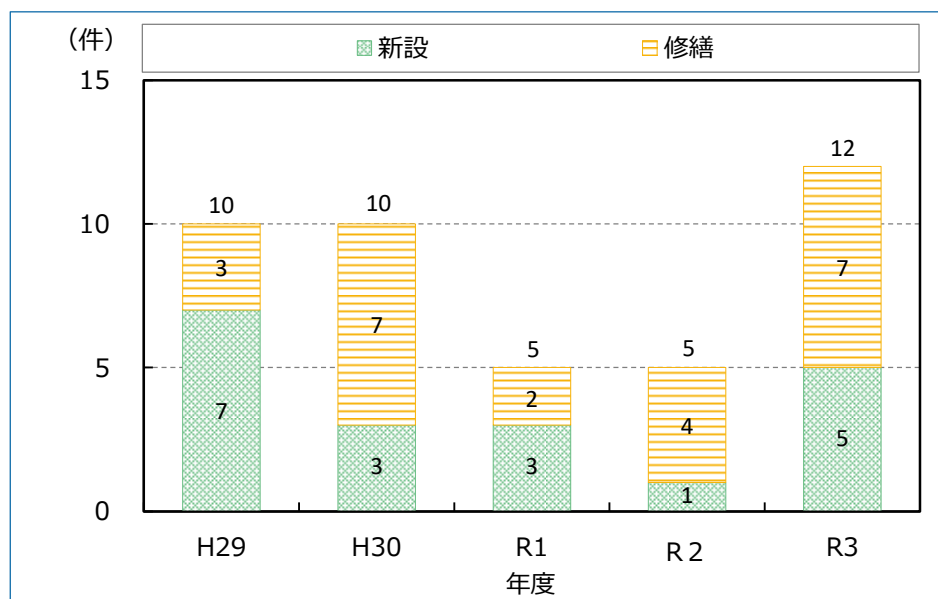
資料：浅口市資料

生ごみ処理機補助金交付件数

(5) ごみステーション施設整備

本市では、ごみステーションの整備を促進し、ごみステーション美化運動の推進を図り、市の美化及びごみ処理の効率化に資するため、自主的にごみステーションの施設整備を行う地域の団体に対して補助金を交付しています。

交付件数は、令和 3 年度で 12 件となっており、増減しながら推移しています。

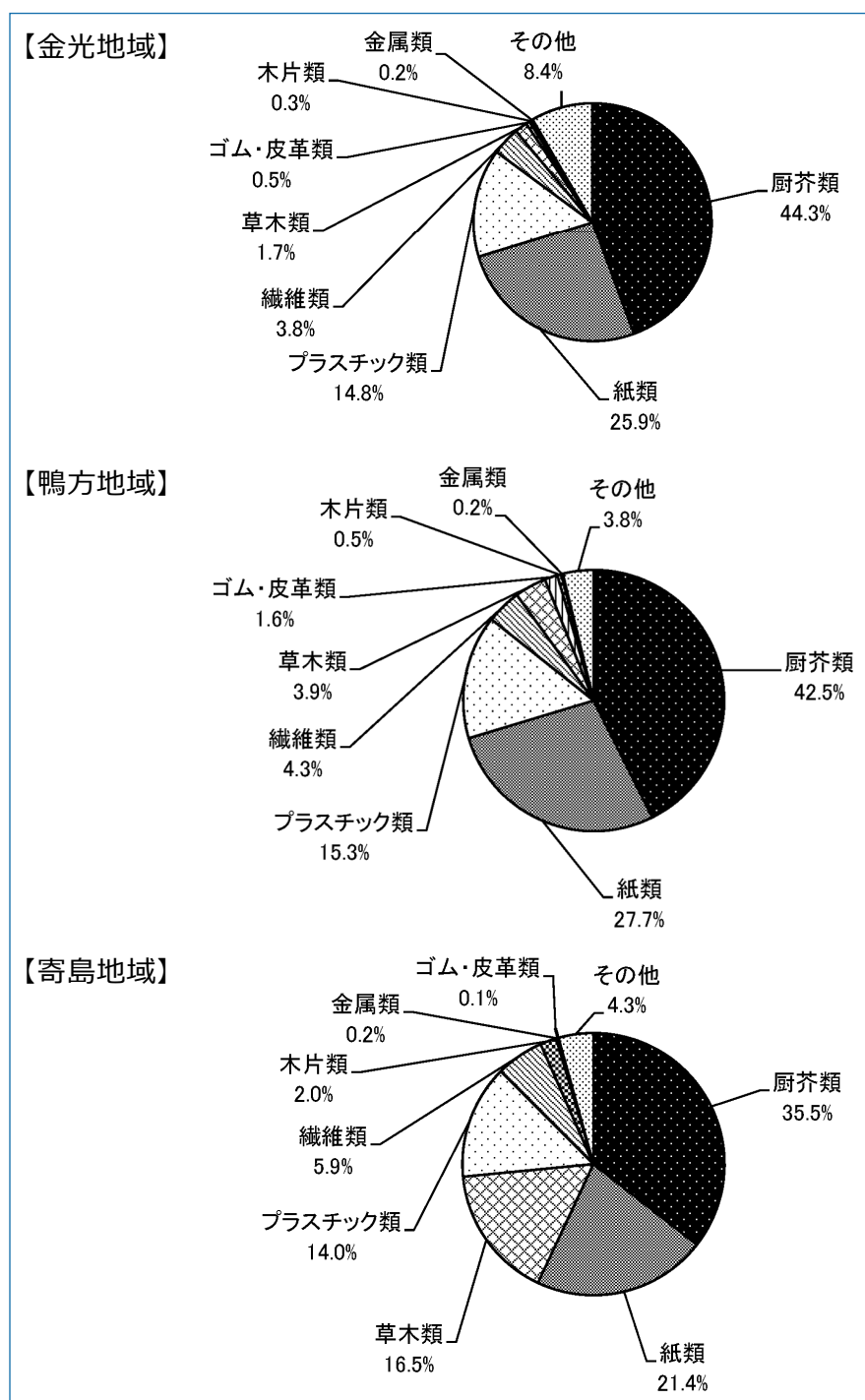


資料：浅口市資料

ごみステーション施設整備補助金交付件数

(6) ごみ組成

平成 30 年に実施された家庭系ごみの可燃ごみ品目別組成調査結果によれば、地域によって多少の差が見られるものの、厨芥類（食品、調理くず等）の組成割合が約 35～44%で最も高く、次いで紙類が約 21～28%、プラスチック類が約 14～15%などとなっています。また、そのうち、資源化可能物（何らかの資源化ルートが確保されているもの）の混入割合は約 23～32%となっています。



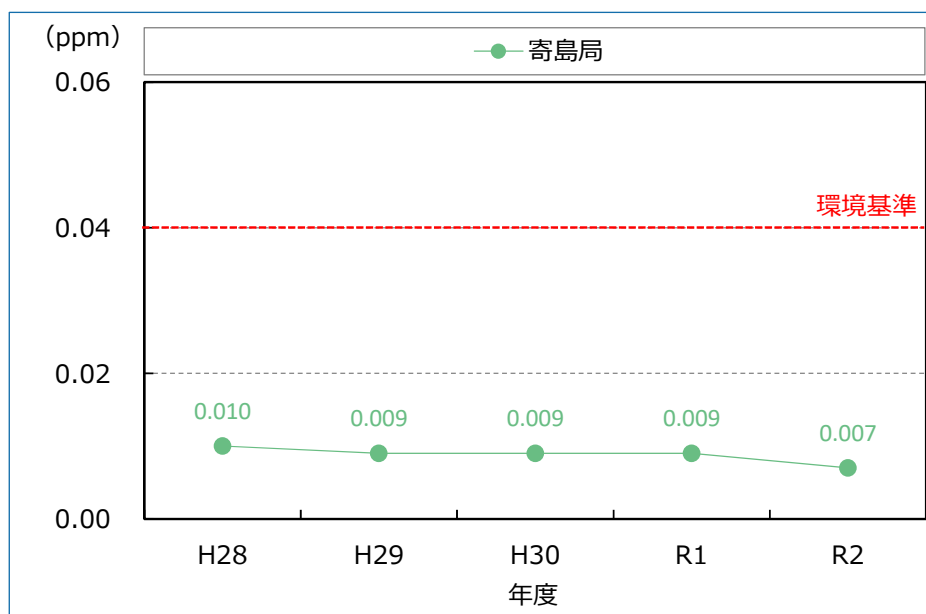
資料：第 2 次一般廃棄物処理基本計画（浅口市）
家庭系ごみの可燃ごみ品目別組成調査結果

2-3 生活環境

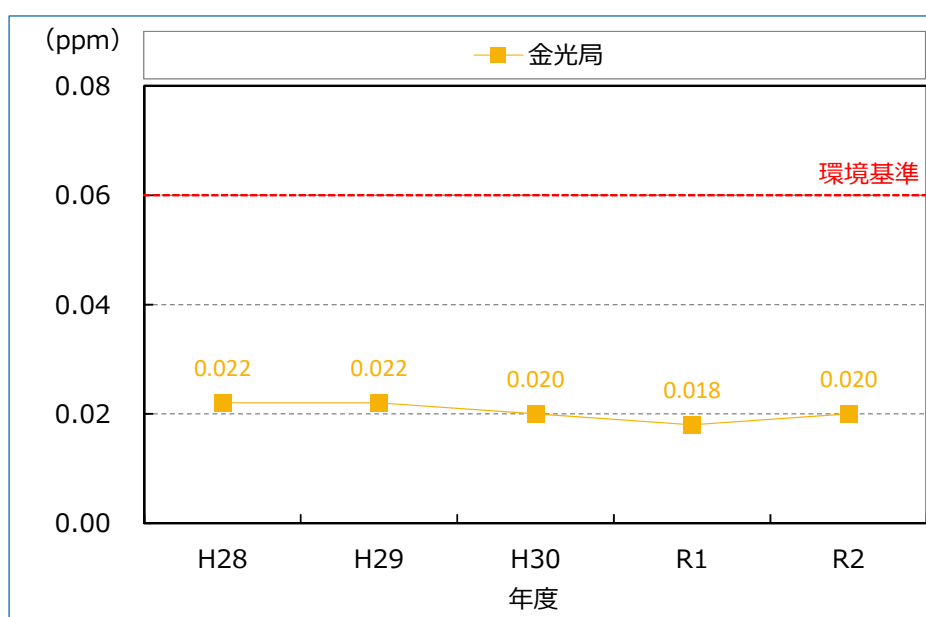
(1) 大気環境

市内には、一般環境大気測定局が2局（金光局・寄島局）設置されており、岡山県による二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び光化学オキシダントの常時監視が行われています。

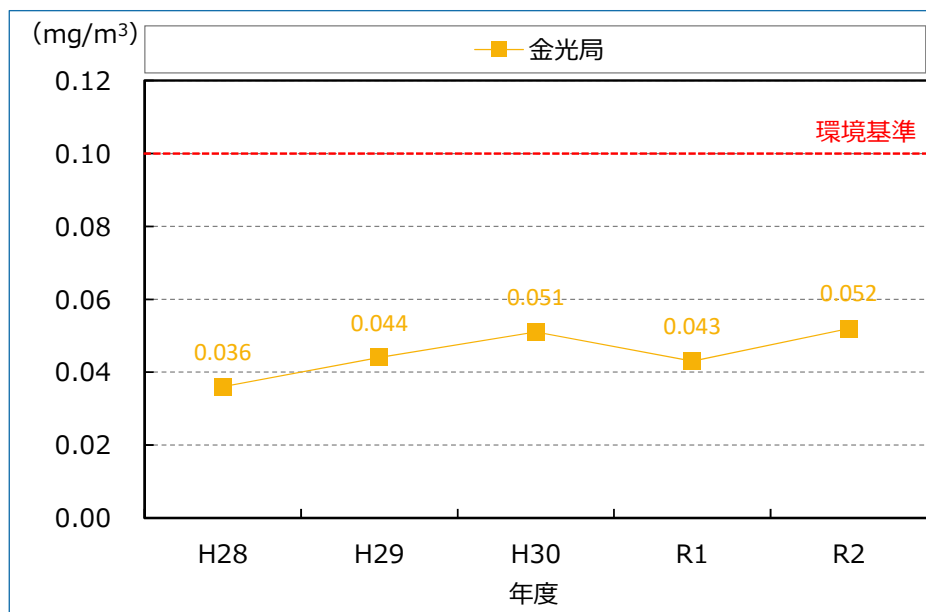
ここ5年間を見ると、二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については環境基準を達成していますが、光化学オキシダントについては県内の他局と同様に環境基準を超過しています。



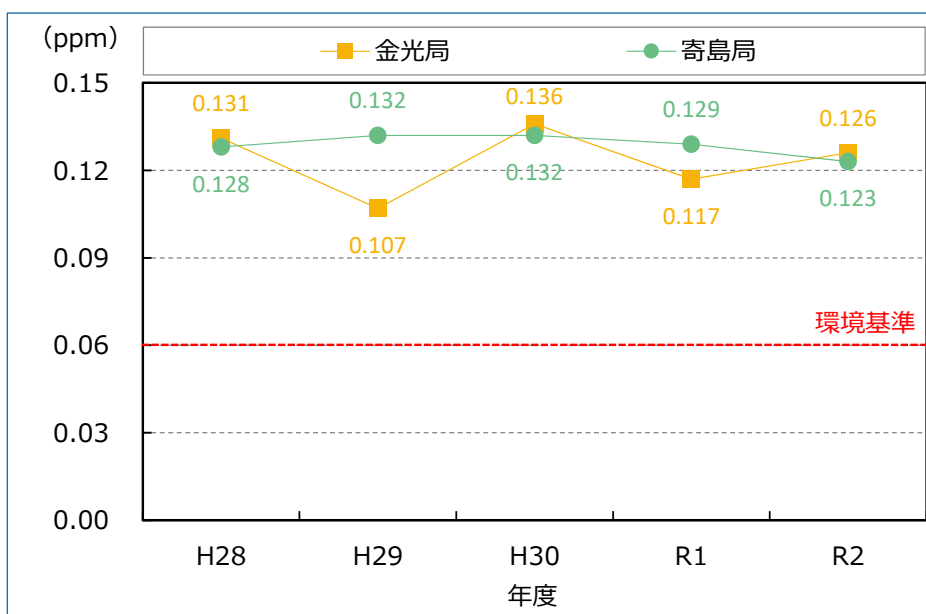
資料：岡山県の環境大気概況、岡山県環境白書
二酸化硫黄濃度（日平均値の年間2%除外値）の測定結果



資料：岡山県の環境大気概況、岡山県環境白書
二酸化窒素濃度（日平均値の年間98%値）の測定結果



資料：岡山県の環境大気概況、岡山県環境白書
浮遊粒子状物質濃度（日平均値の年間 2%除外値）の測定結果

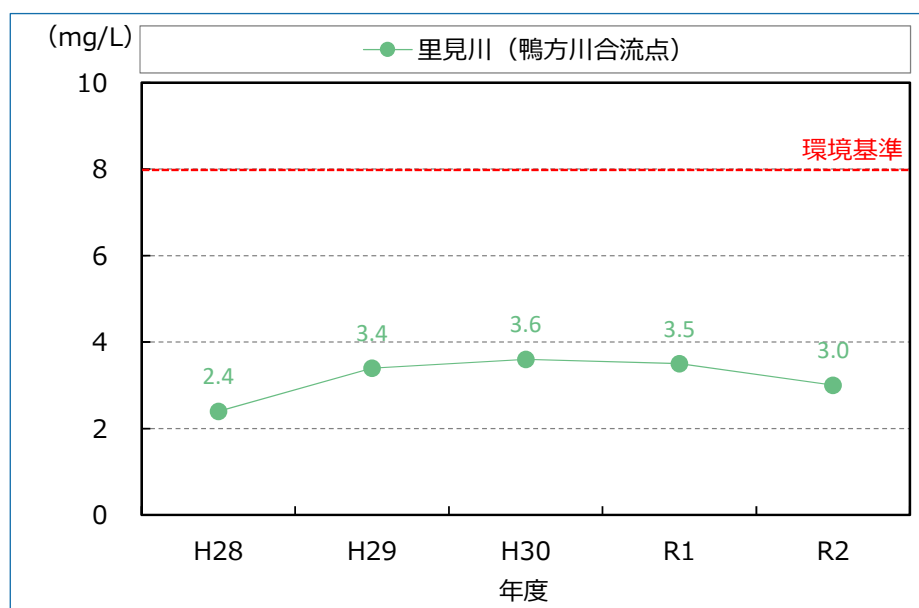


資料：岡山県の環境大気概況、岡山県環境白書
光化学オキシダント濃度（昼間の 1 時間値の最高値）の測定結果

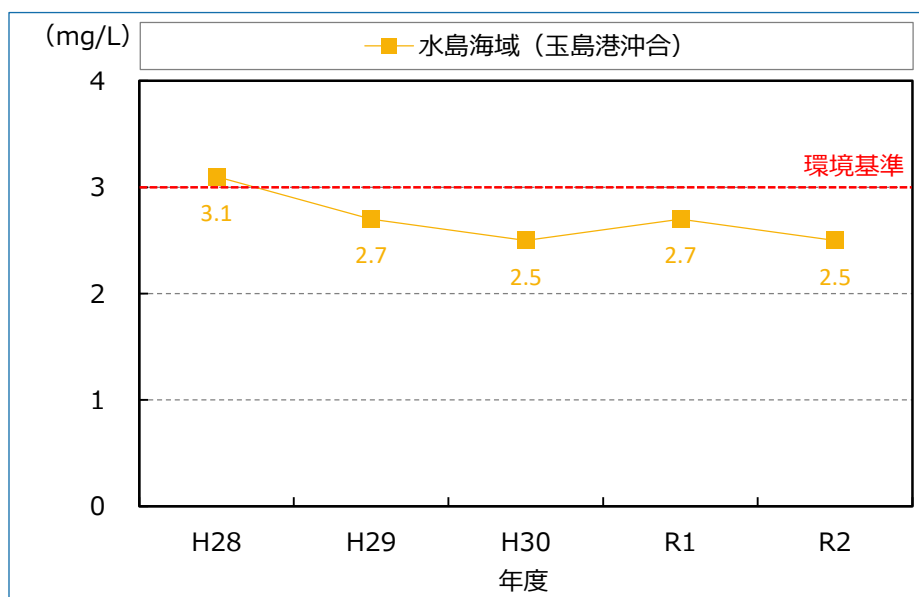
(2) 水環境

市内を流れる河川及び周辺海域を対象に、岡山県による水質の測定が毎年度行われています。

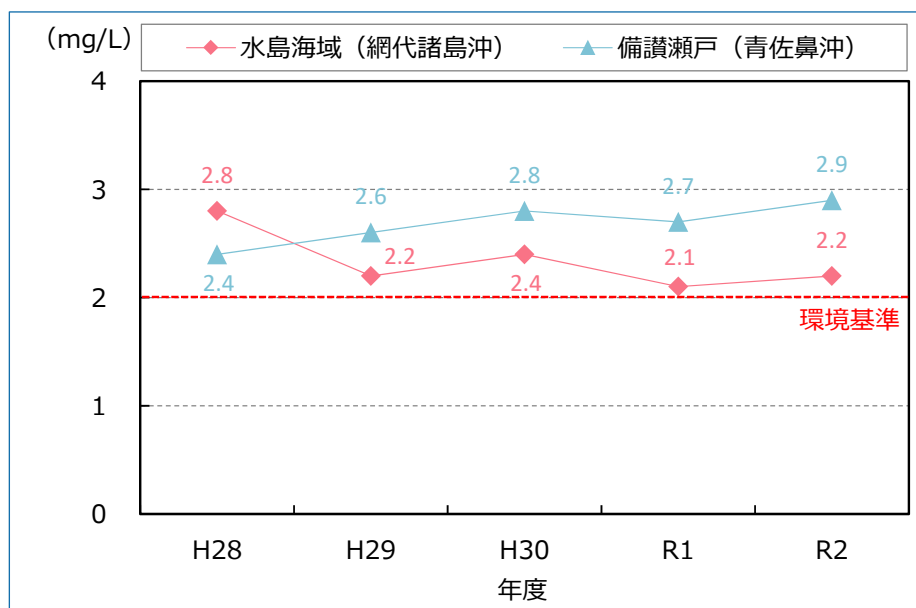
ここ5年間を見ると、里見川については、河川における水質汚濁の代表的な指標である生物化学的酸素要求量（BOD）の環境基準を達成しています。また、水島海域（玉島港沖合）については、海域における水質汚濁の代表的な指標である化学的酸素要求量（COD）の環境基準を平成29年度以降達成していますが、水島海域（網代諸島沖）及び備讃瀬戸（青佐鼻沖）については環境基準を超過しています。



資料：公共用水域水質測定結果（岡山県）
生物化学的酸素要求量（BOD：75%値）の測定結果



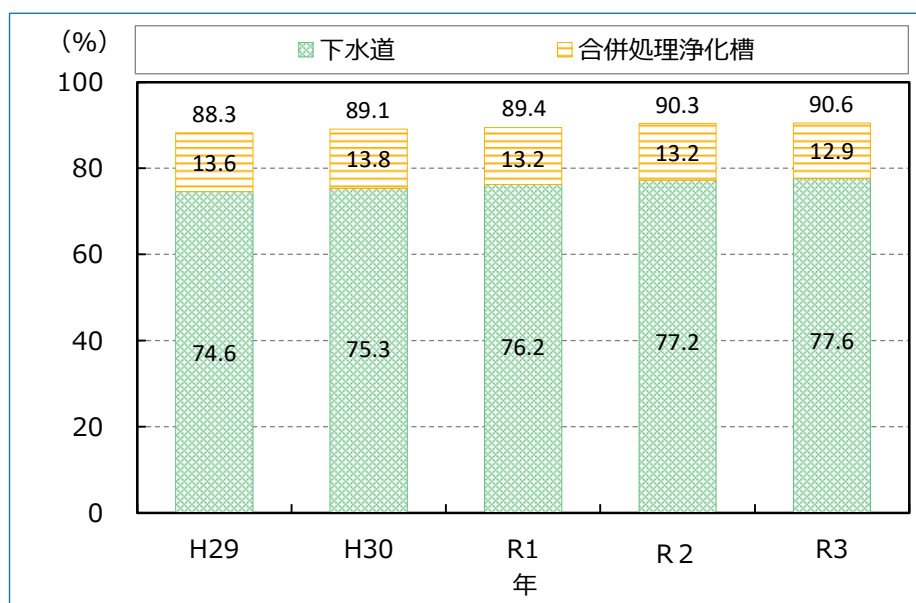
資料：公共用水域水質測定結果（岡山県）
化学的酸素要求量（COD：75%値）の測定結果《その1》



資料：公共用水域水質測定結果（岡山県）
 化学的酸素要求量（COD：75%値）の測定結果《その2》

（3）生活排水処理施設

本市の汚水処理人口普及率は、令和3年度で90.6%となっており、増加傾向で推移しています。その内訳を見ると、下水道普及率が77.6%、合併処理浄化槽が12.9%となっており、下水道普及率は増加傾向、合併処理浄化槽普及率は多少の増減はあるものの減少傾向で推移しています。



資料：岡山県資料

汚水処理人口普及率

(4) 騒音

市内の主要道路を対象に、自動車騒音の測定を毎年度行っています。

ここ5年間を見ると、山陽自動車道及び一般国道2号で昼間・夜間ともに環境基準を超過していますが、その他の道路については環境基準を達成しています。

また、市内の山陽新幹線を対象に、岡山県による鉄道騒音の測定が毎年度行われていますが、ここ5年間を見ると、環境基準を超過しています。

自動車騒音の測定結果

測定年度	道路名	測定地点	時間区分	環境基準 (dB)	測定結果 (dB)
H28	里庄地頭上線	鴨方町小坂西	昼間	70	67
			夜間	65	59
H29	山陽自動車道	金光町上竹	昼間	70	73
			夜間	65	73
H30	一般国道2号	金光町佐方	昼間	70	73
			夜間	65	72
		金光町佐方	昼間	70	71
			夜間	65	71
R1	一般国道2号 (玉島・笠岡道路)	金光町大谷	昼間	70	51
			夜間	65	43
	矢掛寄島線	鴨方町六条院中	昼間	70	67
			夜間	65	58
R2	本庄玉島線	金光町下竹	昼間	70	64
			夜間	65	57

注) 表中の黄色着色箇所は、環境基準を超過していることを示します。

資料：岡山県環境白書

新幹線鉄道騒音の測定結果

測定地点	環境基準 (dB)	測定結果 (dB)				
		H28	H29	H30	R1	R2
鴨方町地頭上 (25m 地点)	70	76	76	75	75	76

注) 表中の黄色着色箇所は、環境基準を超過していることを示します。

資料：岡山県環境白書

(5) 振動

市内の山陽新幹線を対象に、岡山県による鉄道振動の測定が毎年度行われていますが、ここ５年間を見ると、新幹線鉄道振動指針値を達成しています。

新幹線鉄道振動の測定結果

測定地点	指針値 (dB)	測定結果 (dB)				
		H28	H29	H30	R1	R2
鴨方町地頭上 (25m 地点)	70	60	61	60	61	60

資料：岡山県環境白書

(6) ダイオキシン類

市内を流れる河川、周辺海域、地下水及び土壌を対象に、岡山県によるダイオキシン類の測定が毎年度行われていますが、ここ５年間を見ると、全てで環境基準を達成しています。

ダイオキシン類（水質）の測定結果

測定地点	環境基準	測定結果 (pg-TEQ/L)				
		H28	H29	H30	R1	R2
里見川 (鴨方川合流点)	1	0.091	0.041	0.17	0.16	0.067
水島海域 (玉島港沖合)	1	0.042	0.045	0.061	0.060	0.062
水島海域 (網代諸島沖)	1	0.11	0.099	0.054	0.049	0.051
備讃瀬戸 (青佐鼻沖)	1	0.059	—	0.12	—	0.068

資料：岡山県環境白書

ダイオキシン類（底質）の測定結果

測定地点	環境基準	測定結果（pg-TEQ/g）				
		H28	H29	H30	R1	R2
里見川 （鴨方川合流点）	150	0.095	0.096	0.084	0.20	0.081
水島海域 （玉島港沖合）	150	2.2	2.8	2.3	3.2	2.1
水島海域 （網代諸島沖）	150	0.30	0.57	0.88	0.50	0.66
備讃瀬戸 （青佐鼻沖）	150	6.0	—	6.4	—	5.7

資料：岡山県環境白書

ダイオキシン類（地下水質）の測定結果

測定地点	環境基準	測定結果（pg-TEQ/L）				
		H28	H29	H30	R1	R2
鴨方町六条院中	1	—	0.018	—	—	—
金光町大谷	1	—	—	—	0.050	—

資料：岡山県環境白書

ダイオキシン類（土壌）の測定結果

測定地点	環境基準	測定結果（pg-TEQ/g）				
		H28	H29	H30	R1	R2
六条院小学校	1,000	—	0.011	—	—	—
金光竹小学校	1,000	—	—	—	0.012	—

資料：岡山県環境白書

(7) 文化財

市内には、国登録有形文化財が 24 件、県指定文化財が 4 件、市指定文化財が 40 件あり、適正な保護・管理が行われています。

文化財の数		
区分		件数
国登録有形文化財	建造物	24
県指定文化財	建造物	2
	絵画	1
	歴史資料	1
	合計	4
市指定文化財	建造物	5
	絵画	5
	彫刻	7
	書跡典籍	2
	古文書	2
	考古資料	2
	史跡	7
	名勝	2
	天然記念物	3
	無形民俗文化財	5
	合計	40

資料：浅口市資料



大浦神社・本殿
(国登録有形文化財：建造物)



金光教教学研究所・客殿
(国登録有形文化財：建造物)



アッケシソウ自生地
(市指定文化財：天然記念物)



西山拙斎碑
(市指定文化財：史跡)

(8) 観光・レクリエーション等

市内には、観光施設、公園、歴史・文化施設など、28の観光・レクリエーション施設等が存在します。

主な観光・レクリエーション施設等の数

区分	数
観光施設	6
公園	6
歴史・文化施設	9
景観資源	7
合計	28

資料：浅口市資料



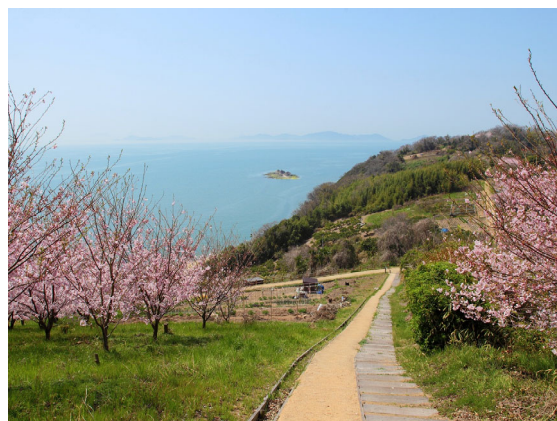
三郎海岸（瀬戸内海国立公園内）



遙照山総合公園（展望台）



かもがた町家公園

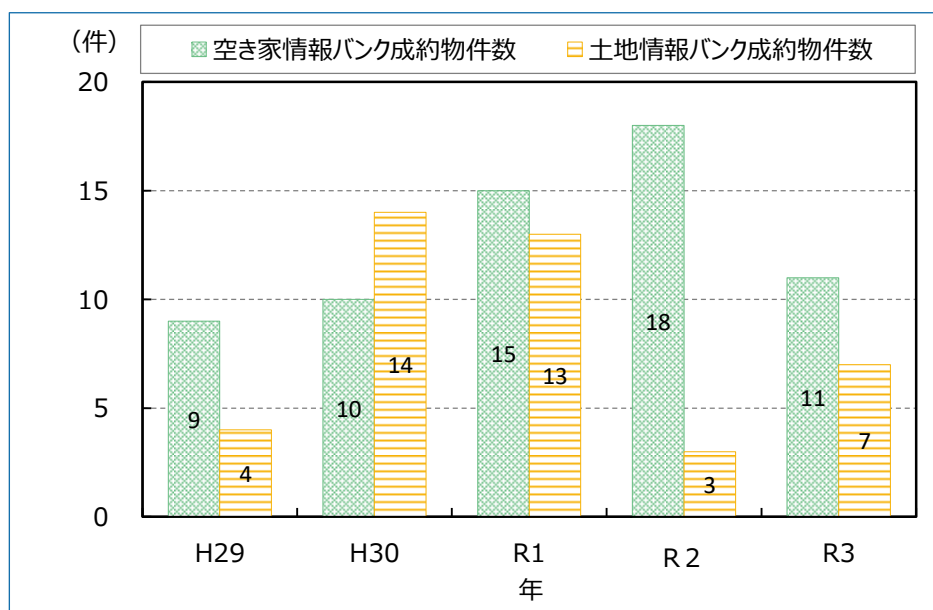


寄島園地（瀬戸内海国立公園内）

（９）空き家・空き地

本市では、空き家や空き地の増加に対応していくため、居住可能な空き家や住宅等が建築可能な土地の情報提供の充実化に資する空き家情報バンク及び土地情報バンクを設立しています。

空き家情報バンク及び土地情報バンクの活用による成約物件数は、令和３年度でそれぞれ１１件、７件となっており、増減しながら推移しています。



資料：浅口市資料

空き家情報バンク成約物件数及び土地情報バンク成約物件数

2-4 自然環境

(1) 希少野生動植物

本市では、「岡山県版レッドデータブック 2020」に掲載されている多くの希少野生動植物が生息・生育しています。同レッドデータブックでは、鳥類、昆虫類、維管束植物及びコケ植物についてのみ、掲載種の生息・生育地域が公表されています。

市内ではチュウヒをはじめとする鳥類が 15 種、ヒメヒカゲをはじめとする昆虫類が 19 種、アッケシソウをはじめとする維管束植物が 36 種確認されています。

市内で確認されている希少野生動植物（鳥類）

No	種名	カテゴリー	
		岡山県	国
1	ツクシガモ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
2	オシドリ	準絶滅危惧	情報不足（DD）
3	アカハジロ	情報不足	情報不足（DD）
4	チュウサギ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧（NT）
5	クロサギ	情報不足	該当なし
6	ヒクイナ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧（NT）
7	カッコウ	準絶滅危惧	該当なし
8	ハマシギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧（NT）
9	チュウヒ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠB類（EN）
10	ハイタカ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧（NT）
11	オオタカ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧（NT）
12	サシバ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
13	フクロウ	絶滅危惧Ⅱ類	該当なし
14	アオバズク	絶滅危惧Ⅱ類	該当なし
15	ハヤブサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

資料：岡山県版レッドデータブック 2020

市内で確認されている希少野生動植物（昆虫類）

No	種名	カテゴリー	
		岡山県	国
1	ベニイトトンボ	情報不足	準絶滅危惧（NT）
2	ムスジイトトンボ	情報不足	該当なし
3	オグマサナエ	準絶滅危惧	準絶滅危惧（NT）
4	ハッチョウトンボ	準絶滅危惧	該当なし
5	ノシメトンボ	情報不足	該当なし
6	ヒメミズカマキリ	準絶滅危惧	該当なし
7	タガメ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
8	キボシトックリバチ	準絶滅危惧	該当なし
9	ニッポンモンキジガバチ	準絶滅危惧	該当なし
10	シマゲンゴロウ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧（NT）
11	オオクワガタ	情報不足	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
12	ヨツボシカミキリ	準絶滅危惧	絶滅危惧ⅠＢ類（EN）
13	ウラナミアカシジミ	準絶滅危惧	該当なし
14	クロシジミ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠＢ類（EN）
15	オオウラギンヒョウモン	絶滅	絶滅危惧ⅠＡ類（CR）
16	ヒョウモンモドキ	絶滅	絶滅危惧ⅠＡ類（CR）
17	オオムラサキ	準絶滅危惧	準絶滅危惧（NT）
18	ウラナミジャノメ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
19	ヒメヒカゲ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧ⅠＢ類（EN）

資料：岡山県版レッドデータブック 2020

市内で確認されている希少野生動植物（維管束植物：その１）

No	種名	カテゴリー	
		岡山県	国
1	ハマハナヤスリ	情報不足	該当なし
2	マツバラン	情報不足	準絶滅危惧（NT）
3	イシカグマ	準絶滅危惧	該当なし
4	ミヤマノコギリシダ	準絶滅危惧	該当なし
5	ツクシイワヘゴ	絶滅危惧Ⅱ類	該当なし
6	オニバス	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
7	マルバオモダカ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
8	アギナシ	準絶滅危惧	準絶滅危惧（NT）
9	トチカガミ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧（NT）
10	ミズオオバコ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
11	コバノヒルムシロ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）

資料：岡山県版レッドデータブック 2020

市内で確認されている希少野生動植物（維管束植物：その2）

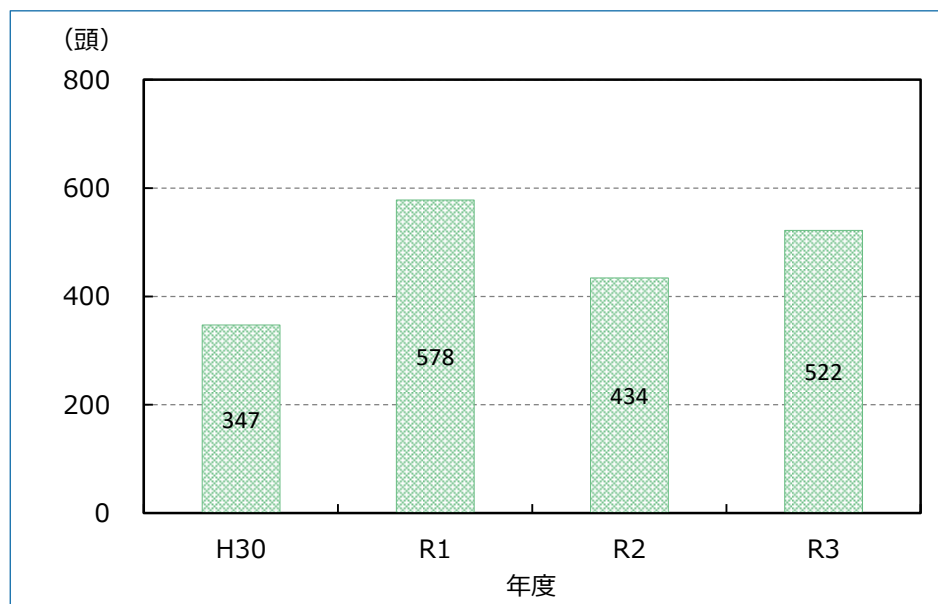
No	種名	カテゴリー	
		岡山県	国
12	イトクズモ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
13	キンラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
14	ミズトンボ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
15	ミクリ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧（NT）
16	コガマ	準絶滅危惧	該当なし
17	オオホシクサ	準絶滅危惧	該当なし
18	ツクシクロイヌノヒゲ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
19	オオバイカイカリソウ	準絶滅危惧	該当なし
20	コゴメヤナギ	準絶滅危惧	該当なし
21	ハナナズナ	絶滅	絶滅危惧ⅠA類（CR）
22	サクラタデ	準絶滅危惧	該当なし
23	イシモチソウ	準絶滅危惧	準絶滅危惧（NT）
24	アッケシソウ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
25	ハママツナ	準絶滅危惧	該当なし
26	イヌセンブリ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
27	フナバラソウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
28	ナミキソウ	準絶滅危惧	該当なし
29	ゴマクサ	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
30	ヒキヨモギ	準絶滅危惧	該当なし
31	ノタヌキモ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
32	ガガブタ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧（NT）
33	アサザ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧（NT）
34	タカサゴソウ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類（VU）
35	ウラギク	準絶滅危惧	準絶滅危惧（NT）
36	ハマボウフウ	準絶滅危惧	該当なし

資料：岡山県版レッドデータブック 2020

(2) 有害鳥獣

市内では、イノシシ、ヌートリア、ハシブトガラスなど、有害鳥獣による農作物被害が発生していることから、捕獲や防護柵の設置等の被害防止対策を推進しています。

イノシシの捕獲頭数は、令和3年度で522頭となっており、増減しながら推移しています。



資料：浅口市資料

イノシシの捕獲頭数

2-5 環境教育・環境保全活動

(1) 環境教育

本市では、小学4年生を対象に社会科の授業の一環として、家庭系ごみの収集作業や分別方法を学習する「ごみの学習」や、生活排水の処理方法を学習する「水の学習」など、事業者等と連携した環境教育を毎年度実施しています。



「ごみの学習」の実施状況



「水の学習」の実施状況

(2) 環境保全活動

本市では、金光町域における除草・清掃活動である「グリーンガード」や、鴨方町域における清掃活動である「クリーン作戦」など、地域と連携した環境保全活動を毎年度実施しています。

また、寄島町域では有志のボランティア団体や青佐地区町内会による海岸清掃活動が実施されています。



「グリーンガード」の実施状況



海岸清掃活動の実施状況

3 環境に対する意識

3-1 調査概要

市民・中学生・事業所を対象としたアンケート調査の実施概要は、下表に示すとおりです。

アンケート調査の実施概要

区分	調査対象	調査期間	有効回収数	有効回収率
市民	市内在住の18歳以上の男女1,500人	令和3年11～12月	738件	49.2%
中学生	市内の中学2年生	令和3年11月	223件	—
事業所	市内で事業活動を行っている100事業所	令和3年11～12月	61件	61.0%

3-2 調査結果概要

市民・中学生・事業所を対象としたアンケート調査結果の概要は、以下に示すとおりです。なお、調査結果の詳細は、「資料編」に掲載しています。

(1) 地域の環境に関する満足度

- 「空気のきれいさ」、「家庭からのごみの分別や出し方のマナーの良さ」、「星空の美しさ」、「家のまわりの静かさ」については、市民・中学生ともに満足度が高くなっています。
- 一方で、「海の水のきれいさ」、「河川や池の水のきれいさ」については、市民・中学生ともに満足度が低くなっています。

地域の環境に関する満足度（トップ5位：全20項目中）

順位	市民	中学生
1位	空気のきれいさ 【78.5%】	山林や海などの自然の豊かさ 【76.3%】
2位	悪臭の少なさ 【67.5%】	家庭からのごみの分別や出し方のマナーの良さ 【74.5%】
3位	家庭からのごみの分別や出し方のマナーの良さ 【67.2%】	星空の美しさ 【72.2%】
4位	星空の美しさ 【66.7%】	空気のきれいさ 【71.7%】
5位	家のまわりの静かさ 【66.3%】	家のまわりの静かさ 【70.4%】

地域の環境に関する満足度（ワースト5位：全20項目中）

順位	市民	中学生
20位	環境に関する学習の機会や情報の多さ【18.5%】	海の水のきれいさ【31.9%】
19位	海の水のきれいさ【25.6%】	河川や池の水のきれいさ【34.1%】
18位	河川や池の水のきれいさ【29.4%】	まちの清潔さ【39.9%】
17位	動植物の多さ【30.2%】	ごみの不法投棄の少なさ【44.4%】
16位	公共交通機関の便利さ【31.7%】	自然災害に対する安全性の高さ【49.7%】

（２）地域の環境に関する重要度

- 「まちの清潔さ」、「ごみの不法投棄の少なさ」、「自然災害に対する安全性の高さ」については、市民・中学生ともに重要度が高くなっています。特に、「まちの清潔さ」については、ともに1位となっています。
- 一方で、「動植物の多さ」、「歴史・文化の豊かさ」、「自然とふれあう場や機会の多さ」、「公園の数や広さ」については、市民・中学生ともに重要度が低くなっています。

地域の環境に関する重要度（トップ5位：全20項目中）

順位	市民	中学生
1位	まちの清潔さ【86.6%】	まちの清潔さ【83.4%】
2位	空気のきれいさ【85.9%】	ごみの不法投棄の少なさ【78.9%】
3位	ごみの不法投棄の少なさ【84.1%】	自然災害に対する安全性の高さ【78.9%】
4位	自然災害に対する安全性の高さ【83.6%】	河川や池の水のきれいさ【76.7%】
5位	家庭からのごみの分別や出し方のマナーの良さ【82.9%】	海の水のきれいさ【75.8%】

地域の環境に関する重要度（ワースト5位：全20項目中）

順位	市民	中学生
20位	動植物の多さ【43.6%】	公園の数や広さ【52.4%】
19位	歴史・文化の豊かさ【49.0%】	歴史・文化の豊かさ【53.4%】
18位	自然とふれあう場や機会の多さ【51.2%】	動植物の多さ【54.7%】
17位	環境に関する学習の機会や情報の多さ【51.6%】	自然とふれあう場や機会の多さ【56.0%】
16位	公園の数や広さ【55.0%】	星空の美しさ【58.3%】

（３）市が重点的に今後進めるべき取組

- 「公共交通機関の利便性向上・利用促進」、「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止対策」、「地球温暖化に伴う気候変動への適応策の検討」、「再生可能エネルギー設備や省エネルギー設備などの導入に対する補助金制度の充実」、「ごみの分別の徹底・リサイクルの推進」、「ごみ減量化の推進」については、市民・中学生ともに回答割合が高くなっています。
- その他では、市民で「空き地や空き家の適正管理」や「有害鳥獣による農作物被害の防止対策」、中学生で「食品ロスの削減」や「海ごみ対策の推進」の回答割合が高くなっています。

市が重点的に今後進めるべき取組（**トップ10位**：全29項目中）

順位	市民	中学生
1位	公共交通機関の利便性向上・利用促進【41.3%】	食品ロスの削減【37.7%】 ごみのポイ捨てや不法投棄の防止対策【37.7%】
2位	空き地や空き家の適正管理【36.9%】	
3位	ごみのポイ捨てや不法投棄の防止対策【36.7%】	海ごみ対策の推進【26.5%】
4位	有害鳥獣による農作物被害の防止対策【35.1%】	公共交通機関の利便性向上・利用促進【24.2%】 ごみの分別の徹底・リサイクルの推進【24.2%】
5位	地球温暖化に伴う気候変動への適応策の検討【24.5%】	
6位	再生可能エネルギー設備や省エネルギー設備などの導入に対する補助金制度の充実【21.4%】	太陽光・バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入促進【22.9%】
7位	ごみの分別の徹底・リサイクルの推進【19.6%】	ごみの減量化の推進【22.4%】
8位	電気自動車や燃料電気自動車などの次世代自動車の普及促進【17.8%】	地球温暖化に伴う気候変動への適応策の検討【22.0%】
9位	ごみの減量化の推進【16.8%】	再生可能エネルギー設備や省エネルギー設備などの導入に対する補助金制度の充実【20.2%】
10位	河川や海等の水質改善【16.5%】	美しい星空の保全【17.5%】

(4) 事業所が市に今後期待する支援等

- 「環境保全のための設備投資に対する補助金制度の充実」を期待する事業所の割合が最も高くなっています。

市に今後期待する支援等（**トップ3位**：全10項目中）

順位	事業所
1位	環境保全のための設備投資に対する補助金制度の充実 【65.6%】
2位	他事業者での先駆的な取組事例の紹介 【42.6%】
3位	環境保全に関する情報発信の充実 【37.7%】

(5) 再生可能エネルギー設備・省エネルギー設備の導入状況・今後の導入意向

- 「高効率照明」については、既に導入している市民・事業所の割合が高くなっていますが、その他については3割以下となっています。
- 「電気自動車」、「プラグインハイブリッド自動車」、「蓄電システム」などについては、今後の導入意向を持っている市民・事業所の割合が高くなっています。

再生可能エネルギー設備・省エネルギー設備の導入状況（**トップ5位**：全14項目中）

順位	市民	事業所
1位	高効率照明 【59.6%】	高効率照明 【75.4%】
2位	高効率給湯器 【32.1%】	断熱窓や高断熱建材 【26.2%】
3位	断熱窓や高断熱建材 【27.4%】	太陽光発電設備 【24.6%】
4位	ハイブリッド自動車 【18.4%】	ハイブリッド自動車 【23.0%】
5位	太陽光発電設備 【15.7%】	高効率給湯器 【14.8%】

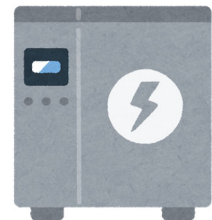
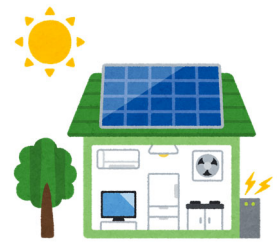
再生可能エネルギー設備・省エネルギー設備の今後の導入意向（**トップ5位**：全14項目中）

順位	市民	事業所
1位	電気自動車 【55.8%】	電気自動車 【55.7%】 蓄電システム 【55.7%】
2位	プラグインハイブリッド自動車 【54.5%】	
3位	ホームエネルギーマネジメント システム 【47.6%】	プラグインハイブリッド自動車 【50.8%】
4位	蓄電システム 【45.9%】	高効率給湯器 【42.6%】
5位	生ごみ処理機 【43.1%】	高効率空調システム 【42.6%】

4 環境の課題

4-1 地球環境

- 市域における温室効果ガス（CO₂）排出量は減少傾向で推移していますが、2050年までに排出量を実質ゼロにする脱炭素社会の実現に向けて、これまで低炭素社会の実現のために推進してきた各種取組を一層強化するとともに、徹底した省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの最大限の導入を図っていく必要があります。
- 市内への太陽光発電の導入は進んでいるものの、エネルギー供給の多様性の観点から、地域資源を活用した多様な再生可能エネルギーの最大限の導入可能性について調査・研究を行っていく必要があります。
- 再生可能エネルギーの導入拡大は、地球温暖化対策だけではなく、電力の分散化による災害時・緊急時の地域のレジリエンス強化に資するものであるため、昨今の頻発する災害への対応の観点からも、防災拠点や避難所に再生可能エネルギーや蓄電池を活用した自立・分散型電源を率先的に導入するとともに、地域への波及を図っていく必要があります。
- 「環境保全のための設備投資に対する補助金制度の充実」を期待する事業所の割合は高くなっていることから、補助金制度の創設や活用できる補助金等について情報発信を行うなど、支援体制の強化を図っていく必要があります。
- 「電気自動車」及び「プラグインハイブリッド自動車」の導入意向を持っている市民・事業所の割合は高くなっていることから、導入効果や活用できる補助金等について情報発信を行うとともに、充電設備等のインフラ整備を推進していく必要があります。
- 市民の「公共交通機関の便利さ」に対する満足度は低くなっているとともに、「公共交通機関の利便性向上・利用促進」の推進を期待する市民の割合は高くなっています。また、公共交通機関については、高齢者の免許返納後の移動手段として、より広域的な移動需要への対応が必要となるため、利便性の向上を図ることで、持続可能な公共交通体系の構築を目指していく必要があります。
- 温室効果ガスの排出を抑制する緩和策に加えて、集中豪雨の頻度・強度の増加、熱中症リスクの増加など、地球温暖化の進行がもたらす気候変動の影響に備える適応策を検討していく必要があります。



4-2 資源循環

- ごみ排出量及び1人1日当たりのごみ排出量は減少傾向で推移していますが、今後も3Rのうち優先されるべきごみの発生抑制（リデュース）と再使用（リユース）に重点を置いた取組により、ごみの排出抑制を促進していく必要があります。
- 家庭系ごみの可燃ごみには厨芥類（食品・調理くず等）が4割程度含まれています。そのため、生ごみの3きり運動（水切り・使いきり・食べきり）の徹底、生ごみ処理機の導入促進やフードドライブへの協力による食品ロスの削減を、広報紙やホームページを通じて広く呼びかけていくことで、さらなるごみ減量につなげていく必要があります。
- 家庭系ごみの可燃ごみには資源化可能物（紙類・プラスチック類など）が約2～3割程度含まれています。そのため、出前講座の開催、広報紙やホームページを通じた情報発信によって、ごみの分別方法やごみ出しルール等の浸透・定着を図ることによって、さらなる分別の徹底を促していく必要があります。
- 買い物へのマイバッグの持参は定着しつつありますが、「プラスチック資源循環促進法」の施行を契機として、プラスチックをとりまく様々な環境問題に対応していくため、プラスチックごみの削減や使い捨てプラスチック製品を使用しないライフスタイルへの転換を図っていく必要があります。
- 資源集団回収量及び資源集団回収団体数はともに減少傾向で推移していることから、回収団体への報奨金の交付を継続するとともに、活動の拡充や団体の育成を図っていく必要があります。
- 市民・中学生の「まちの清潔さ」に対する重要度は全20項目でともに最も高くなっているとともに、「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止対策」の推進を期待する市民・中学生の割合は高くなっています。そのため、ごみの不法投棄やポイ捨てをしにくい環境づくりを推進するとともに、ごみの不法投棄やポイ捨ての禁止に関する意識啓発に努め、市民のマナーやモラルの向上を図っていく必要があります。
- 今後、さらに進行していく高齢化に対応していくため、現在の粗大ごみの戸別収集の拡充など、高齢になっても誰もが安心してごみ出しができる仕組みづくりを推進していく必要があります。
- 大規模災害の発生に備えて、災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理する体制づくりを推進していく必要があります。



4-3 生活環境

- 光化学オキシダントについては環境基準を超過していることから、モニタリング調査を継続するとともに、注意報等の発令時には市民への迅速な情報発信を行うことで、健康被害の未然防止に努めていく必要があります。
- 海域の化学的酸素要求量（COD）については環境基準の超過が見られるとともに、市民・中学生の「河川や池の水のきれいさ」及び「海の水のきれいさ」に対する満足度はともに低くなっていることから、モニタリング調査の継続や水環境の改善に向けた生活排水対策の推進を図っていく必要があります。
- 市民・中学生の「家のまわりの静かさ」に対する満足度はともに高くなっていますが、自動車騒音及び新幹線鉄道騒音については環境基準の超過が見られることから、モニタリング調査を継続するとともに、地域の実情に応じて必要な対策を検討していく必要があります。
- 市民・中学生の「歴史・文化の豊かさ」に対する重要度はともに低くなっていることから、市内の文化財の適正な保護・管理に努めるとともに、市内外にその価値や魅力を情報発信していく必要があります。
- 中学生の「公園の数や広さ」に対する満足度及び重要度はともに低くなっていることから、公園や緑地の計画的な整備・維持管理を推進し、うるおいと安らぎの空間としての機能の強化を図っていく必要があります。
- 市内の景観資源の保全や観光・レクリエーション施設等の機能強化に努めるとともに、市内外にその魅力を情報発信していく必要があります。また、市民・中学生の「星空の美しさ」に対する満足度はともに高くなっていることから、光害防止に向けた普及啓発に努めるとともに、天文台のあるまちの特色を生かした事業展開を検討していく必要があります。
- 「空き地や空き家の適正管理」の推進を期待する市民の割合は高くなっていることから、防災・保安・衛生・景観などに悪影響を及ぼすおそれがある空き家や空き地の発生抑制や適正管理を促進するとともに、利活用の拡大を図っていく必要があります。



4-4 自然環境

- 市民の「動植物の多さ」に対する満足度及び重要度はともに低くなっていることから、アッケシソウをはじめとする希少野生動植物の保全や大賀ハス等の育成管理を推進するとともに、生息・生育状況の現状把握や情報発信を行うことで、生物多様性保全に対する意識や関心の高揚に努めていく必要があります。
- 市内で生息・生育が確認されている特定外来生物の特徴や駆除方法について情報発信を行うことで、生態系被害の拡大防止に努めていく必要があります。また、岡山県や周辺自治体と連携して、新たな特定外来生物の侵入防止に努めていく必要があります。
- 市内では有害鳥獣による農作物被害が発生しているとともに、「有害鳥獣による農作物被害の防止対策」の推進を期待する市民の割合は高くなっていることから、有害鳥獣による農作物被害の拡大防止に努めていく必要があります。
- 森林環境譲与税、岡山県の補助金等を活用した森林整備や担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発を行うことで、水源かん養機能、生物多様性保全機能、地球環境保全機能、土砂災害防止機能等の森林が有する多面的機能の維持・発揮を図っていく必要があります。また、自然環境が持つ様々な機能をインフラ整備に活用するグリーンインフラの考え方を取り入れたまちづくりを推進していく必要があります。
- 「浅口市内の公共建築物等における県産材等の利用に関する方針」に基づき、公共建築物等への県産材等の利用促進を図っていく必要があります。
- 総農家数は減少傾向で推移していることから、新規就農者の確保や認定農業者の育成などによって、地域農業の維持・発展を図っていく必要があります。
- 経営耕地面積は減少傾向で推移していることから、荒廃農地の発生防止・解消に努めていく必要があります。



4-5 環境教育・環境保全活動

- 市民の「環境に関する学習の機会や情報の多さ」に対する満足度・重要度はともに低くなっていることから、「岡山県地球温暖化防止活動推進センター」等の関係機関との連携の強化を図りつつ、次世代を担う子どもたちをはじめとする幅広い世代を対象とした魅力ある環境教育を推進していく必要があります。
- 環境教育の機会や環境イベント等を広く周知するため、広報紙・ホームページ・SNS・ケーブルテレビなど、各種の情報発信媒体を活用して、役立つ・分かりやすい環境情報を発信していく必要があります。
- 市内の環境教育や環境保全活動の活性化を図るため、推進を担う人材の発掘・育成や活躍の場の提供を行っていく必要があります。
- 市民一人ひとりが環境基本計画を知り、趣旨や内容を理解することが、環境保全に向けた取組の第一歩として必要不可欠であることから、第2次計画の策定を契機とした積極的な情報発信を行い、環境保全に関する理解促進や環境意識の高揚を図っていく必要があります。
- 市民一人ひとりが持続可能な開発目標（SDGs）を理解・認識し、具体的な行動を実践する担い手となるよう、本市の環境施策とSDGsとの関連性を整理することによって、内容の周知・啓発を行っていく必要があります。

